

2015.10.23

浦山純子 ピアノ・リサイタルシリーズ 「ショパン&ラフマニノフの世界」 Vol.3 〈豊穡〉

《開催概要》

スタインウェイ・アーティストの浦山純子氏によるピアノ・リサイタルシリーズ「ショパン&ラフマニノフの世界」の第 3 回公演を、2016 年 3 月 13 日(日)浜離宮朝日ホールにて開催いたします。

国内外で多彩な演奏活動を続けてきたピアニスト・浦山純子氏が、ショパンとラフマニノフという 2 人の作曲家に焦点を当てた全 4 回の意欲的なリサイタルシリーズを 2014 年 6 月に満を持してスタートさせました。

ショパンとラフマニノフの作品は、浦山氏の代名詞ともいえるもの。ショパンとは、ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院にて長く学び、ラジヴィュー国際ピアノコンクール(ポーランド)では優勝及び最優秀ショパン賞を受賞したほか、その作品群が浦山氏の演奏家人生に変わることなく寄り添い、励みになってきたという深い関係を持ちます。一方ラフマニノフとは、彼の大親友でピアニストのゴリデンヴェイゼル(ラフマニノフは彼に「2 台のピアノのための組曲 第 2 番 Op.17」を献呈、共にリスト直系ジロティに学ぶ)の孫弟子として、ロシアピアノズムに大きな影響を受けて研鑽を積んできた経緯があります。どちらの作曲家も、そのロマンティックで情熱的な作品が浦山氏の豊かな感受性や幅広い表現力と結びついて、氏の演奏活動において常に重要なレパートリーであり続けています。

実は結びつけて語られることの少ないその 2 人の作曲家を「望郷の思い」というキーワードから焦点を当て、その人生を追うかたちで構成するのが今回のリサイタルシリーズ。どちらの作曲家も若くして才能を開花させ、故郷を出て異国の地で創作に励みますが、のちに戦争や病いに阻まれ、望郷の思いを強く持ちながらも叶わず、その郷愁を作品に書き残してこの世を去ってしまいました。

自身も若くして留学し長く海外で生活してきただけでなく、震災によって生まれ故郷の福島県郡山市、また育った地である宮城県仙台市の変わり果てた景色を目の当たりにした経験から、特に「郷愁」という感情に強い共感を持つ浦山氏は、その思いをキーワードに据え、自身のピアニスト人生のひとつの包括とすべく、本シリーズを企画しました。シリーズは青年期の〈飛翔〉、壮年期の〈憧憬〉、円熟期の〈豊穡〉、晩年の〈郷愁〉と、全 4 回にわたって 2 人の作曲家の人生を追いかけます。

第 1 回は青年期の作品に焦点を当て、NHK 交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏を共演に迎えてショパン:ピアノ協奏曲 第 1 番他を熱演、各方面から高評を得ました。第 2 回は 2 人の作曲家の壮年期の名作をプログラミング。浦山氏と同じく前述ゴリデンヴェイゼルの孫弟子にあたる気鋭のピアニスト、ステファン・チリッチ氏をゲストに迎え、ラフマニノフがゴリデンヴェイゼルの献呈した「2 台のピアノによる組曲 第 2 番 Op.17」をメインに圧巻の 2 台ピアノ演奏を披露、絶賛されました。

第 3 回の今回は、全 4 回のシリーズの中で唯一のソロ・リサイタル。浦山氏が渾身の力を込め、満を持して臨みます。プログラムは、ショパン:ピアノ・ソナタ 第 2 番 変ロ短調「葬送」 Op.35、そしてこの作品から強い影響を受けて作曲されたラフマニノフ:ピアノ・ソナタ 第 2 番 変ロ短調 Op.36 など、2 人の作曲家の円熟期の名作からお届けします。

ぜひ本公演にご注目賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

公演特設ページ <http://www.1002.co.jp/junkourayama/recital2016/>

名 称	浦山純子 ピアノ・リサイタルシリーズ「ショパン&ラフマニノフの世界」 Vol.3 〈豊穰〉
日 時	2015年3月13日(日) 14:00 開演／13:30 開場
会 場	浜離宮朝日ホール
主 催	朝日新聞社／株式会社 1002
協 力	スタインウェイ・ジャパン株式会社 株式会社ソニー・ミュージックダイレクト 株式会社ミュージックエンターテイメント
制 作	株式会社 1002

本公演についてのお問い合わせ

〒102-0083

東京都千代田区麹町 1-3-7 日月館麹町ビル 3F

株式会社 1002 公演担当=宮田 真帆[ミヤタ マホ]

TEL 03-3264-0244 / FAX 03-3264-1788

MAIL miyata@1002.co.jp

《公演概要》

プログラム

ショパン／前奏曲 嬰ハ短調 Op.45
ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調「葬送」 Op.35
ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」 Op.53
ラフマニノフ／前奏曲 嬰ト短調 Op.32-12、ト短調 Op.23-5
ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.36

出演者

浦山純子【ピアノ】 Junko Urayama, Piano

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業後、ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院に留学。1995年ラジヴィウ国際ピアノコンクール優勝、及び最優秀ショパン賞(ポーランド)、98年ポーランド国際ピアノコンクール最高位(イタリア)を始めとする数々の賞を受賞。

96年よりロンドンを拠点とし、名門ウイグモアホールにてデビュー。ヨーロッパ各国でソロリサイタル、コンチェルトから室内楽に至るまで幅広く活動し、2002年にはウラディミール・アシュケナー指揮フィルハーモニア管弦楽団とグリーグ:ピアノ協奏曲を共演し成功を収め、再びフィルハーモニア管弦楽団に招かれて同年チチェスター音楽祭にて演奏。

05年に帰国、銀座・王子ホールでデビュー後、多彩な企画で演奏活動を展開し、スタインウェイ・ジャパン(株)の“Young Virtuoso Series”のアーティストとしても全国各地でコンサートを行ったほか、国内外で教育・福祉関係のためのチャリティ活動にも力を入れている。

09年よりスタートさせたリサイタルシリーズ「心の旅への誘(いざな)い」は、「奥の細道」から着想された柏木俊夫作曲:『芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ』を取り上げる独創的な企画が注目を集めた。12年には本作品の全曲録音 CD として〈VOYAGE ヴォヤージュ〉を発表、文化庁芸術祭に選出された。

14年より自身の代名詞ともいえる作曲家・ショパンとラフマニノフの生涯を追う全4回のリサイタルシリーズ「ショパン&ラフマニノフの世界」をスタート。第1回に連動して〈CONCERTOS コンチェルト〉(ショパン:ピアノ協奏曲第1番&ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番、山下一史指揮/仙台フィルハーモニー管弦楽団)をリリースし高評を得たほか、第2回は同門の気鋭ピアニスト、ステファン・チリッチを迎えてラフマニノフ:2台のピアノのための組曲第2番ほかを熱演、音楽誌各誌に取り上げられるなど好評を博した。

CD はこれまでに、03年〈Piano Recital ピアノリサイタル〉05年〈Fantasie ファンタジー〉07年〈Soirée ソワレ〉(イギリス・シンフォニカレコード)、12年〈VOYAGE ヴォヤージュ〉14年〈CONCERTOS コンチェルト〉(ソニーミュージック/ミュージズ)をリリース。

浅野繁、奥村洋子、安川加壽子、アンジェイ・ステファンスキ、スラムタ・アロノフスキ各氏に師事。

スタインウェイ・アーティスト。

浦山純子オフィシャル WEB サイト <http://www.junkourayama.com/>

料金

¥4,000(全席指定・消費税込)

プレイガイド

朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990 (オペレーター対応 日・祝除く 10:00~18:00)

チケットぴあ 0570-02-9999 <http://pia.jp/t/> (Pコード:278-877)

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (オペレーター対応 休館日を除く 10:00~18:00)

プロデュース

株式会社 1002 [イチマルマルニ]

お問い合わせ

株式会社 1002 03-3264-0244 <http://www.1002.co.jp/>

※未就学児の入場はお断りしております。託児サービスをご利用ください。イベント託児・マザーズ(要予約) 0120-788-222
※都合により、出演者・プログラムが変更になる場合がございます。